

けんしゅう だより ①



中央中等教育学校 授業研究・FEWC 推進部
新しい学びのための授業改善研修 第1号 令和6年7月12日発行

＊授業別グループ協議(KJ法)および、授業後の生徒の振り返り、講師水野正朗先生(東海学園大学教授)のご講義の内容を元に作成しています。

＊スペースの都合上、ご意見を合わせたり、編集したりさせていただいた部分がございます。

校内研修テーマ：『学習の個性化』を伴った探究的で創造的な学習の導入

米山右恭先生 国語 5学年

・ LESSON OUTLINE ・

「枕草子」179段「宮に初めて参りたるころ」の内容を要約するとともに、読解に必要な古典常識を併せてスライドにまとめ発表を行う。また、「清少納言はなぜ『枕草子』を描いたのか」というテーマを解決するために、生徒が自分で必要だと思う情報を選択・収集し、その結論をレポートにまとめる。

1. 「学習の個性化」を伴った探究的で創造的な学習について

(公開授業後の参加者アンケートおよび授業検討会から)

学び:・国語も英語も、ただ文章を訳して終わるのではなく、内容について学びを深め、生徒一人ひとりがその成果を自らの言葉で他人にしっかり説明できていた姿が非常に印象的でした。/・(生徒は)それぞれが課題に向かって真剣に取り組んでいました。複数テキストに定番教材が含まれ、有機的に関連して扱っていた。/・「教材で学ぶ」ことのできる授業スタイルであった。/・スライドや資料の提示の仕方が良く練られていて生徒が理解しやすい。生徒の知的好奇心(探究心)を刺激する。/・生徒が訳だけでなくいろいろな角度から古典文化を読み解いていた。/・文法など知識理解の正確さ、内容理解の達成度を図るのが難しい。

個性化:・各自が興味関心の高いものを取り上げ問いの解決に向けて取り組んでいた。/・一つの資料では不足し、もっと読みたいという生徒の気持ちを引き出していた

協働:・資料の提示方法が工夫され生徒が教室内を移動するようになっていたので、自由に動くことができ協働の活動がより活発であった。/・生徒が「大丈夫」「大丈夫じゃない」と言い合える心理的安定のある関係性が必要。/・生徒が理解したことや分からないことを言葉にして周りの生徒と伝えあっていた。/・グループ内で課題を分担することで、個別の学びを集団に還元し、さらにレポートを通して個別の学びにつなげていた。生徒の能力が協働的な活動の中で高まるような展開となっていた。/・レポートについて、個人 or ペア or グループと自由に設定しているため、自らの課題を解決するために同じ課題に取り組む人と自然に協働する流れが生まれていた。/・教員からの活動のアドバイスだけでなく、生徒の考え全体への共有が途中であっても良かった。

2. 授業後の生徒振り返りから

授業後の振り返りの中で「本日の授業で、自分の興味・関心あるいは自分の課題だと感じていることを中心に学習方法を選択して学びを深めることができたと思いますか。」という質問に対し、回答した生徒のうち全員が「とてもそう思う」「そう思う」と肯定的な意見であった。以下、その理由について。

- ・個性化：自分が最初に選んだ宮仕えについてより詳しくレポートにまとめたいと思ったから。/自分の興味のあるところから勉強できるから/自分の興味のある資料を選択することができた/自分の気になる項目を選んで興味深く調べることができた。/指示に従うだけでなく、どの資料をみたら疑問解決につながるのか考えられた。/自分の興味がある問いから考え始めて、友達と会話をしていく中でいろいろな情報を得て、課題を考えることができたから。
- ・協働性：同じ資料を見ていた友達と協力して結論を導くことができたから。/気になったことを進んで調べたり、友達と情報共有できたから/同じ資料からどんな情報が得られるか共有したほうが答えにたどり着きやすかったから。
- ・理解度：難しかったけれど、なるべく現代語訳を見ないようにして考察できたから/訳を見ないで本文を読んで、問いに答えられたから。/自分の知識の範囲を増やせる/いつもよりも意味調べや文脈をしっかりと理解できるまでできたと思うから。



西村吉史先生 英語 2学年

・ LESSON OUTLINE ・

AIが私たちの暮らしや人生にどのような影響を与えるか考えた上で、各々がたてた正解のない問いをもとに、それぞれの最適解を出し、プレゼンテーションを行う。その後、自分たちがどのようにして学習を調整してきたかについて発表する。

1. 「学習の個性化」を伴った探究的で創造的な学習について

(公開授業後の参加者アンケートおよび授業検討会から)

- ・学び：・プレゼンで全体に還元する機会がある。学びの成長につながる。/・グループの活動であるがゆえに、役割によっては英語自体の学びが深まらない、基本が身につかない生徒もいるのでは？/・学習内容とプレゼンがどのようにリンクしているのか、子どもたちの認識はどうか？/・生徒の変化について教員側が知るためにはポートフォリオなどだろうか？/・プレゼンの対象、場面、状況をしっかり設定させることが必要。/・授業の進度を自分たちで決められる。/・探究のサイクルを意識させることでより自主的でより効果的な学習につなげられる。/・対象を変えてプレゼンを3回やるのならば、そのたびに振り返り→自

己課題→改善という流れを入れても良いのでは？

個性化： 生徒たちが主体的に学習に取り組み、協力しながらプレゼンまで学びを深めている。/どのよう
に学習してきたか、それぞれに工夫が見られた。/個に合ったスピードで学習できることは充実感につな
がる。/自分で求めないと知ることができない。問いを持って調べることができる。/自身で計画し、実行す
ることで、興味関心に沿って学びを成長させていける。/テーマが自分ごとになっていた。

協働：・一人一人がそれぞれ立てた課題に向けて真摯に向き合い、グループで協力していた。/課題に対し
て方向性をそろえて学習していく姿勢が伝わってきた。

2. 授業後の生徒振り返りより

・問いを立てることが大変で時間がかかった。調べてすぐ答えが出るような問いでは意味がないから。
・教科書を自分の字で埋めることができうれしかった。（普段の授業は速くてついていけない。）教科
書を読んでスタディサプリを使うことで自分のペースで理解ができた。

Q. 探究活動でのあなたの行動は、グループのメンバーにどの程度貢献したと思いますか？

・**共有：**もともと宇宙分野のことについて詳しく知識を持っており、それを素早く共有できた。/大学教授
の論文や会社などが出している文章をしっかり読み、そこで得た情報を共有した。
・**協働：**・AIに火星に基地を建ててもらおうなど、アイデアを出した。また、火星の特色なども調べ、AIに
できることを考えることができた。問を作ったり、方針を決めたり、役割を決めたりしたときに、率先
して発言することができたから。・(グループの)主となってCanvaでスライドを作った。/積極的に話
し合える雰囲気をもって行けるように頑張った。/スライドづくりにあまり関われなかった。/課題設定
のときに、積極的に意見を出すことができた。/問いについても考えたり、周りの意見と組み合わせたり
しながらチームの考えをまとめることができた。

Q. このユニットの授業であなたが「よかった」と思ったことは何でしょう？

個性化：・自主的に勉強をし、自分にあった学習方法を知ることができたこと。/より主体的に自由に取り
組めたこと。/いつもとは違い、自分で好きなように必要なだけ学べたこと。/パソコンで調べながら教
科書に書き込むという新しい手法を見つけることができた。/ただひたすら教科書の内容を勉強するだ
けでなく、教科書の内容についても深く考えることができたのでよかった。/はじめての授業スタイル
で、面白かった。

協働：・班の仲間と協力できた。/・三人で役割を分担してそれぞれ準備をしたことが良かったなと思った。
しかもその役割をそれぞれが好きで得意なことだったため、より良かったと思う。楽しかったー

水野先生 語録

- ・「放牧の時間（課題に向かい、生徒が自己調整して学ぶ時間）」の確保。
- ・生徒主体の対話的学習（協働の学び）を授業に組み込む。
- ・生徒に笑顔、共感、驚き、うなずき、沈黙、対話があるか。

質の高い学び「本物の達成」に向けた 授業&カリキュラムの再構築（見直し）

真正の学び

真正の学び
につながる
学習目標

深い学び
を促進する
学習課題

学習者中心
の協働的な
問題解決活
動

単元をつらぬく問い



局面ごとの問い

個別の問い

「ねりあげ」授業に見られる文化的スクリプト(参考)

①個人学習 Individual learning	<教材と向き合い、切実な「問い」を生み育てる過程> 自分一人だけでやる学習。 体験活動、話し合い → 自分なりの考えや予想を持つ。	起	導入
②組織学習 Designs for learning	<学級全体の「共通問題」を形成する過程> 「つぶし」によって学級全体の学習を整理する。 各自が学習を深め、全員が学習に向かう体制(組織)が整う。	承 転	展開
③一斉学習 Whole class learning	<学級全体が「共通問題」を追求する過程> 学級全体が一つの共通問題を対象にして解決に向けて追究する。		
	<対立点・矛盾点(ズレ)が浮き彫りになる過程> 思いがけない発想や意見が提出され、問いが深まる。 <全員が納得する答え(納得解)を形成する過程> 一定の納得はするが、時に未解決の課題や疑問が新たに見つかる。 (①~③ or ②~③ or ③ が繰り返される)		
④整理学習 Summary learning	<全過程を通して獲得したものを整理し、知識を定着させる過程> 学習したもののなかにある原則とか法則とか新しく発見したものとかを学級全体のものや一人ひとりのものにする。	結	まとめ

齋藤喜博(1964)『授業の展開』(島小学校の授業形態) pp.241-244.を参照して作成。
水野,2019 pp.131-132を修正, Arani, M.R.S., Mizuno, M., Shibata, Y. (2022)に掲載)